

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

アカデミックで自由闊達な校風のもと、文武両道の実践を通じて、知・徳・体のバランスがとれ、豊かな人間性と心身のたくましさを備えた生徒、さらには、高い志とチャレンジ精神によって自らの進路を切り開き、社会貢献を行う努力を惜しまない生徒を育成する。また、グローバル化が急速に進む中で、社会の課題に関心を持ち、国際社会のリーダーとしてふさわしい次のような能力や態度を育む。

- ・多角的な視点を持ち、ものごとを洞察する力、
- ・主体的に課題を解決しようとする態度、
- ・コミュニケーション能力、
- ・自己を確立するとともに、互いの違いを認め合い尊重しようとする態度

以上の「育てたい生徒像」をベースにして、「北野生の『妻さ』を『見せる』学校づくり」に オール北野 で取り組む。

2 中期的目標

1 高い学力の育成

教員、生徒がともに真摯に学ぶ環境を追求し、高度な知識と教育スキルを兼ね備えた教員集団を確立するとともに、授業を通じて生徒が学問に対する興味・関心を高め、自ら主体的に学び、さらに高度な学びに向かってチャレンジしていく意欲を高める。生徒に育成すべき資質・能力として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を常に意識して取り組む。

(1) アカデミックな授業 ～北野生の「妻さ」が「見える」授業づくり～

教員の専門的知識及び教育スキルの向上を図るため、授業改善を進める。授業においては言語活動を重視するとともに、ICTをより効果的に活用できるよう取り組む。学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現と観点別学習状況の評価に意を用いるものとする。

ア 授業に係る研修機会や授業相互参観等の充実を図り、教職員の授業スキルの一層の向上を図る。イ 教員の専門的知識を研鑽する機会の充実を図る。

- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「教科指導について、教職員と日常的によく話し合っている」の肯定的評価が2020年度実績で90%以上（29年度85.7%→30年度83.8%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が2020年度実績で85%以上（29年度80.9%→30年度90.1%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している」の肯定的評価が2020年度実績で95%以上を維持（29年度96.1%→30年度96.8%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業は興味深く満足できるものである」の肯定的評価が2020年度実績で90%以上（29年度82.8%→30年度87.8%）

(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成

ア 生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討し、合わせて適切なアドバイス等を行う。イ 生徒の自己実現、進路目標設定のためのキャリア教育の充実を図る。

- ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」と回答する生徒の割合を2020年度実績で50%以上（29年度46.5%→30年度48.4%）、「3時間以上」と回答する生徒の割合を同30%以上（29年度25.2%→30年度25.7%）
- ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「休日の一日平均自主学習時間」が「4時間以上」と回答する生徒の割合を2020年度実績で45%以上（29年度40.4%→30年度31.4%）、「5時間以上」と回答する生徒の割合を同35%以上（29年度28.6%→30年度23.7%）
- ※ ①「知的世界の冒険」、②「職業ガイダンス」、③「学部・学科ガイダンス」各々の生徒アンケートにおける肯定的評価を2020年度実績で各々95%以上を維持する。（①29年度87.3%→30年度86.2%、②29年度99.0%→30年度100.0%、③29年度95.5%→30年度97.3%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価が2020年度実績で90%以上（29年度88.9%→30年度92.8%）
- ※ 生徒進路希望現役実現率（3年第2回11月進路希望調査の第一志望校の現役合格率）が2020年度実績で50%以上（29年度44.2%→30年度34.6%）

2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成

本校のあらゆる学習活動、学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、互いの違いを認め合いつつ協力し、切磋琢磨する中で、高い志を持って何事にもチャレンジしていく心身を育成する。

(1) 学校行事・部活動・課外活動

ア 学校行事や部活動において、生徒がその力を十分に発揮できるよう組織的に支援していく。

- イ 各種コンクール、コンテストや課外での行事等への積極的参加を働きかけていく。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「文化的行事（体育行事）に楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が2020年度実績で90%以上（29年度89.6%→30年度90.9%）
- ※ 生活アンケート（生徒向け）における「部・同好会加入率」が2020年度実績で92%以上を維持（29年度94.9%→30年度94.5%）
- ※ 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数について、2020年度実績を維持（29年度45人9団体→30年度48人11団体）

(2) 人権教育・教育相談の充実

ア 「人権が尊重された教育活動」を根底にすえて、すべての教育活動において、「自分を大切にし、他者を大切にし、その中で自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。

- イ 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくりを一層進める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が2020年度実績で80%以上（29年度79.4%→30年度83.4%）
- ※ 「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が2020年度実績で60%以上（29年度50.4%→30年度59.6%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が2020年度実績で75%以上（29年度58.8%→30年度72.3%）
- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「すべての教育活動において、人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が2020年度実績で80%以上（29年度62.5%→30年度66.1%）

3 次代のグローバル・リーダーの育成

国際的な視野を育むとともに、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成するため、海外や大学との連携、またSGH(Super Global High School)等の取組の充実を図る。英語の4技能をバランスよく育成して、英語によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図る。

(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成

ア 授業を中心とするさまざまな学習活動の中で、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し自分の意見を交えてしっかりと議論ができる力を育成する。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が2020年度実績で80%以上（29年度76.0%→30年度90.7%）。

(2) 海外の機関との連携、高大連携の充実

ア 高大連携を通じて、国際的な視点で大学の研究の最先端に触れ、国際的な社会課題への関心や、その課題解決に向けた意欲を高める。

- イ 海外の大学や高校と連携し、アジアからの留学生との交流や留学生の支援を得る機会を充実させる中で、異なる文化や社会への理解を深め、国際的な視野を広げる。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が2020年度実績で75%以上（29年度69.9%→30年度81.2%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の2020年度実績が65%以上（29年度61.0%→30年度57.5%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際的な社会課題や政治の動きに関心がある」の肯定的評価が2020年度実績で80%以上（29年度66.0%→30年度77.6%）
- 以上のすべての活動を通じて、生徒の学校満足度を高める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「北野高校に来てよかったと思う」の肯定的評価が2020年度実績で90%以上（29年度88.9%→30年度87.8%）

4 【課題研究】以下のテーマを掲げ、課題研究（校内研究）に取り組む。 *PT（プロジェクトチーム）、WT（ワーキングチーム）

(1) 校内研修の活性化を通じた教職員の力量形成

1 (1)に掲げた授業改善を主テーマとした校内研修、首席、指導教諭を中心とした初任期教員（1～概ね3年目）に対する力量形成支援、教育Cのリーダー研修、10年経験者研修、アドバンスセミナー等の校内への成果還元等を通して、教職員同士が学び合う機会を多く創出するとともに、教職員の力量形成における、多様な「カリキュラム・リーダーシップ」のあり方について実践的な研究を進める。

(2) 「知」の継承・発展 *本項の取組には、校内（GLHS；グローバルリーダーズハイスクール）PT、および、WTが分掌、学年と連携して携わる。

ア 現在の教職員がいっまでも本校に在籍するわけではないことを前提に、これまで蓄積されてきた「経験知」を次世代に計画的に継承する仕組みと仕掛けについて研究する。

- イ 蓄積されてきた「経験知」を複合的に活用して教育界喫緊の課題に先進的に取り組む。具体的には以下の2点について、平成31年度までの早い時期に指針を示す。
 - ①高校教育、大学教育、入学者選抜の一体的改革の動向と今次の学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、進路部と教務部が連携協働して、北野高校独自のAP（アドミッション・ポリシー）、CP（カリキュラム・ポリシー）、DP（ディプロマ・ポリシー）を定め、その上で、「入口（入学）から出口（卒業、進学）まで、そして未来（キャリア）へ」と一貫した北野生の「育成スタンダード」（仮称）を策定する。
 - ②学校を取り巻くデータのリサーチ（IR）とそれを活かした広報戦略を経営課題の中核の一つに据え、これに経常的に取り組む校内組織のあり方について研究する。

(3) 「部活動休養日（ノークラブデー）の有効活用 *本項の取組には、校内（GLHS）PT、および、WTが分掌、学年と連携して携わる。

平成29年度からの部活動休養日（ノークラブデー）の設定を、文武両道を真に実現する絶好機と捉え、制度を安定的に定着させつつ、それを学習時間の増加や生徒のアウトリーチ活動（校外発表活動、ボランティア、地域・社会貢献）の充実につなげられるよう実践研究を進める。なお、国・府の働き方改革の議論の動向を注視する。

- *休養日の使い方を部活単位で生徒に考えさせ、主体的・計画的な学習やアウトリーチ活動を計画実践させる。（主に副顧問がアドバイザーに就く）
- *アウトリーチ活動は、例えば、地域美化活動、小中への出前チューター（生徒による学習支援）、地域のお年寄りとの交流などに部活単位で取り組むことを想定。年1～2回。

(4) 学習環境のさらなる充実

ア 指導部と保健体育部が中心となって生徒に働きかけを行い、生徒の主体的な実践を通して清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。

- *＜指導部＞生徒が自らよき生活習慣、生活規範を確立することにより、学習・部活動、その他の活動に健康的にバランスよく取り組み、充実したものになるように、HRやその他の機会を捉えて啓発活動を行う。また、SNS上でのいじめやトラブルの生起を踏まえ、情報リテラシーの育成にも取り組む。
- *＜保健体育部＞生徒保健委員会等の生徒主体の活動を尊重し、望ましい学習環境を自らの行動によって支える意識を高め、すべての生徒が進んで美化活動等の環境整備に取り組むことができるよう支援を行う。また、防災教育の取組を引き続き進める。
- イ 「北野らしい」授業の継続のため、予算の効果的・効率的な執行に努める。また、老朽化してくる教材機器・設備の更新を計画的に実施することを検討する。あわせて、学校のもう一つの「顔」とも言える、トイレ等、生活環境改善の可能性を探る。

※ (1)～(4)については、各年度計画において適切な取組指標を定め、段階的に実績を積み重ねたうえで、各年度末に研究成果を明らかにする。

府立北野高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>◎「高い学力の育成」に関する項目 カッコ内の数字は肯定的評価 (H28年度→H29年度→H30年度) (%)</p> <p>○結果 (生徒) 授業は興味深く満足できるものである。(73.3→82.8→87.8) 授業の難易度、進度は適切である。(難易度 85.1→90.4→88.7、進度 79.8→83.6→87.1) 教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い。(75.9→80.9→90.1) 授業では、実験・観察・実習などの時間がたくさんある。(57.5→59.3→74.5) 学習の評価は適切に行われている。(90.3→91.5→91.1) (保護者) 学校が行う成績評価は適切である。(72.6→73.1→62.6) (教職員) 各教科において、授業、指導方法の研究や教材の工夫を日常的に行っている。(83.1→85.7→93.6)</p> <p>○分析と今後 ・学習指導に関する生徒の肯定的回答が総じて増加し引き続き高い水準となった。授業づくりへの教職員の努力と工夫が実を結び、生徒たちに伝わっている、と自負している。今後もアカデミックな授業づくりに目標高く取り組みたい。 ・各教科で授業、指導方法の研究や教材の工夫を日常的に行っている状況は望ましく、今後も定例教科会議や公開授業、授業参観の充実、観点別評価とその方法の研究等に取り組む。 ・成績評価に関する保護者のスコアが下がっている。今年度導入した観点別評価についての趣旨説明が十分でなかったと反省している。知識量だけでなく、思考力・判断力・表現力や学習に向かう主体性等を多面的、総合的に評価する観点別評価の考え方や評価の方法を新年度に改めて周知する。</p> <p>◎「豊かな人間性と心身のたくましさの育成」に関する項目</p> <p>○結果 (生徒) 北野高校では、他の学校にない特色ある教育活動が行われている。(76.3→81.4→88.8) 文化・体育行事に楽しく参加している。(文 89.3→90.6→93.0、体→88.1→88.5→88.7) ホームルーム活動が活発で楽しい。(83.1→88.0→84.4) HRや講演会などで将来の進路や生き方について考える機会がある。(81.0→91.9→92.7) 悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。(73.9→79.4→83.4) 人権の大切さについて学ぶ機会が多い。(52.7→58.8→72.3) 命の大切さや社会のルールやモラルについて学ぶ機会がよくある。(54.9→61.5→73.3) (教職員) 本校では、他の学校にない特色ある教育活動が行われている。(※→82.1→85.7)</p> <p>○分析と今後 ・学校行事、ホームルーム活動への満足度が高く、生徒が総体として充実した毎日を送っていることがうかがえる。将来の進路や生き方について考える機会や、悩みや相談に親身になって応じてくれる先生の存在についての肯定的回答も増えており望ましい。 ・人権の大切さ、命の大切さや社会のルールやモラルを学ぶ機会については、スコアが上がっているもののまだまだ十分ではない。ホームルームでの講演、講話だけでなく、授業、行事や部活等、日常的な場面でそれらを意識させる機会が増えるよう努めていく。</p> <p>◎「次代のグローバル・リーダーの育成」に関する項目</p> <p>○結果 (生徒) 授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がよくある。(71.0→76.0→90.7) 国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある。(71.6→69.9→78.1) 国際的な社会課題や政治の動きに関心がある。(67.8→66.0→73.0) 何事にも自主的、主体的に取り組むように努めている。(※→77.8→83.5) 入学してからボランティアや地域貢献活動に参加したことがある。(※→15.0→29.6)</p> <p>○分析と今後 ・昨年度来、生徒が自ら考え発表する機会を授業の中でいかに充実させていくか、各教科・科目で考えてきたが、その成果が「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がよくある」の好スコアに繋がっている、と考えている。 ・SGHの課題研究や各種講演会、学内留学、海外スタディーツアー、国際交流事業、ボランティアや地域貢献活動等への主体的な参加が、意識の高揚や参画意識、高校生としての具体的なアクションにまで繋がっていくよう取組の深化を図りたい、と考えている。</p> <p>◎その他の項目</p> <p>○自然災害への対応 ・(生徒) 学校で地震や火災などの災害が起こった場合、どのような行動をとればよいか、具体的に知らされている。(65.7→73.2→84.7) ・(保護者) 子どもは、地震や台風のなどの場合にどのように行動すればよいか、学校から知らされている。(82.0→81.6→65.5) ※「わからない」という回答が13.9%増加。 本項目については、生徒、保護者のスコアが大きく食い違っている。大きな災害を経験し学校としての経験値は高まったが、記述回答にも不安の声が多くあり、保護者にはそれが十分伝わっていないことが分かった。年度末に向け、防災、減災対策と危機対応のまとめを改めて保護者に情報提供する。</p> <p>○保護者回答に関して 今年度、保護者回答の肯定率が全体的に数%ずつ下がっている。これを重く見て、学校の教育方針や教育内容を、配布物や保護者メール、WEBページ等でより丁寧に伝えるとともに、個人懇談やPTAの会合の場で保護者のニーズや思いをより吸い上げることができるよう努めたい。また、以下の項目では肯定回答率が5%程度下がっている。学校と家庭を有機的に繋ぐ仕掛けを考えていきたい。 ・家庭で学校での出来事がよく話題になる。(※→70.2→63.9) ・子どもは、何事にも自主的、主体的に取り組んでいる。(※→80.9→75.4) ・授業参観や学校行事に参加したことがある。(94.8→91.1→85.8)</p> <p>○昨年度からの新規項目について 以下の項目については、引き続き、スコアの変化を見ていく。 ・(生徒) 校則や社会のルール、モラルをきちんと守っている。(※→93.8→95.3) ・(生徒) 学校での出来事を家でもよく話している。(※→69.6→76.4) ※前項保護者回答と不一致 ・(保護者) 日常生活において、子どもの成長を感じることでよくある。(※→86.3→81.9) ・(教員) 本校は、外部(保護者、地域、大学、教育産業等)との連携・協力が積極的に取り組んでいる。(※→78.6→73.0)</p> <p>○自由記述に関して 自由記述では、自然災害への対応に加えて、施設・設備の充実を求める声、2020年の大学入試制度改革に関する情報提供を求める声が多かった。施設・設備については、決定していたプール、トイレの改修が地震で来年度以降に延期になったが、引き続き、教育環境の充実に努めていく。 大学入試制度改革については、1月末に現在の国、文部科学省の動向とそれに対する北野高校の考え方や対応について進路だよりとして配布した。</p>	<p>【第1回：平成30年6月15日(金)】開催 (1) 授業を参観して ・考えさせる場面、生徒が発言・発表する機会が多く設けられており、新鮮であった。生徒が楽しんで授業を受けていることが感じられた。 ・仲間との対話や意見交流を大切にしていることが伝わってきた。一方で、積極的に話すことのできていない生徒に対する指導は課題だと感じた。 ・ICTを活用した教材の作りこみが年々良くなっている。古文の授業では、PCではなくタブレットを用いることで移動が可能になり、机間指導がよくできていた。 (2) 学校からの報告 ・教務部・観点別評価に取り組む。従来、知識の習得に重点を置いてきたが、今後は「思考力・判断力・表現力」を中心に「関心・意欲・態度」も重視していく。観点別評価の実施に伴い、成績の提示の方法も1年生の学年末から変更。 ・進路部・130期入試結果は現役の合格率が上昇し良い結果となった。131期は、京都大学志望者が昨年より大幅に増加、国立大医学部志望者も増加に転じた。 ・指導部・遅刻指導をしっかりと行い、校則についても、個別の声かけ等を重視する。校則を事細かに定めていないことと、指導しないこととは全く異なる。 ・高大連携・これまで、高大連携企画への参加は1年生が多かったが、今年度は、2、3年生も積極的に参加する傾向が見られ、喜んでいる。 ・広報・ウェルカムボードの玄関前設置と学校HPの改善 ・高大接続改革の取組・①授業での思考力・判断力・表現力の育成、②英語4技能育成、③課題研究、④ポートフォリオ (3) 校長より ・学校経営計画に掲げた数値は概ね右肩上がりであるが、中でも、基幹となる指標は、①3年生の第一志望現役合格率、②学校教育自己診断の「授業で自分の考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的評価の割合、③同「北野高校に来てよかったと思う」の肯定的評価の割合である、と考えている。 ・今年度はSGH指定の最終年度であり、指定終了後は自立化が求められる。予算がなくなり教育の質が低下しないよう、取組みの精査とブラッシュアップを図りつつ、受益者負担、同窓会からの支援等、代替となる予算の確保に努めていく。</p> <p>【第2回：平成30年10月18日(土)】開催 (1) 即興型英語ディベート校内セレクションを参観して <取組について> ・1年「国際情報」で全クラスが即興型英語ディベートに取り組んでおり、6月に体育館でデモンストレーション講義を実施した。 ・12月の全国大会に向け、8月25日(土)に関西6校交流大会(北野、堀川、膳所、彦根東、奈良、神戸)を、本日、校内セレクションを開催した。 <感想コメント> ・日本語でも難しいことをよくやっていた。ただ、もっと戦う姿勢が出て欲しい。 ・論理を組み立てるのは難しい。正確で綺麗な英語を話そうとすずぎているようだった。意見や論点をまず言い、新聞を読むなどの見識を広げる必要がある。 ・全体で取り組んでいることがよい。話者に拍手をしたり、最後に握手を交わすことも良い。お互いを認めるという雰囲気づくり1年生においてとても大切。 (2) 学校からの報告 ・授業アンケート(7月実施)結果について・スコアが昨年より上がっている。今年度変更した項目「授業で学習内容や自分の考えをまとめたり発表する機会がよくある」について、授業改善や科会で議論の題材にしてほしい。 ・生活アンケート結果について・学習時間と休日の過ごし方の関連を見るために、部活のある休日とない休日の学習時間に分けて質問した。2、3年生は例年並み、部活のない休日の1年生の学習時間が他学年と比べ少ない。担任には個別データを返却して個人の学習スタイルや充実度に応じた指導をお願いした。 ・観点別評価について・本年度より全学年で観点別評価を実施。1年では学年末にこれまでの評点に加えて観点別の評価を返却。次年度以降、全学年で導入。 ・生徒の様子について・部活では、国体で1年生が砲丸投げで日本一に、3年生がバスケットボールで大阪代表に入る、など頑張っている。遅刻数が前期終わった時点では昨年より減っている。担任を中心に丁寧に対応していきたい。 (3) 協議・意見交流 ・北野生と同じバスに乗るがバスの中で私語をしない、席を譲るといった通学マナーが素晴らしい、と感じる。 ・学習時間は中学でも大阪が少ない。小中で習慣化できていないという面もあり責任を感じる。中学校では自主学习ノートを作るといった工夫をしている。 ・昔は辞書を使って調べた。ノートを作らなくても学べる環境、効率が良くなったから同じことをするにも短時間で済む。しかし、それでは後でしっぺ返しがかかる。参考書を見て覚えるだけでなく、紙に書いて学習する活動がいるのでは。 ・部活のガイドラインが府から出たので今年度中に北野でも指針を作成する。中学でも部活動については課題が多い。 ・六稜同窓会が教育活動支援の基金を新たに創設してくださった。それを特に課題研究に有効活用させていただこうと考えている。</p> <p>【第3回：平成31年2月8日(金)】開催 (1) 校長より、平成30年度、平成31年度学校経営計画及び評価 ・学校経営計画は学校教育自己診断の結果から定量的に検証するスタイル。自己診断の生徒の肯定的評価はほぼすべての項目で向上しており、来年度も教育の質の向上をめざして策定した。観点別評価や防災等、30年度の宿題にも引き続き取り組みたい。⇒満場一致で承認 (2) 学校から ・今年度センター試験の平均点は高止まりしている。2次出願については、延べ人数で医学科は微増、東・京・阪大受験者の合計人数は昨年と同数である。(首席) ・新カリ、2020入試に向け精力的に動くことができた。即興型ディベート、課題研究の取組がダイナミックになり外部での生徒の活躍が顕著だった。(首席、教務) ・遅刻は減少傾向。部活も国体出場や近畿大会出場もあり、生徒たちはよく頑張っている。現在は、部活ガイドラインの策定に取り組んでいる。(生指) ・災害に備え備蓄のため学年費で予算計上している。教室のプロジェクトは1年生が更新完了、2年生は5台まで目途が立った。一方で、トイレとプール改修は次年度以降にずれ込んだ。(事務室) ・7、11月の授業アンケートのスコアが向上している。トビタテ留学JAPANの説明会に30人程度が参加し11名が申請中である。海外に直接進学を考えている生</p>

府立北野高等学校

	<p>徒もいる。体制を整えていきたい。(教頭)</p> <p>(3) 協議・意見交流</p> <p>(ア) 学校教育診断・授業アンケートについて</p> <p>委員：「まとめたり発表する機会がある」の数値向上の背景は？</p> <p>学校：校内研修や学校経営計画の打ち出しによって、能動的な学習を支援しようとする教員意識が高まった。観点別評価の導入によって、授業方法も変わった結果だと考えている。ペア、グループワークを採用し、レクチャーだけでなく、生徒間での学びあいが授業のわかりやすさに直結していると考えている。</p> <p>委員：「ちちんぷいぷい」に出演した北野生を見ていても、堂々と話す、表現力があるなど、頼もしい。</p> <p>(イ) 部活動について</p> <p>委員：クラブで、週に1日も休まない部活もあるのか。</p> <p>学校：土日は体育館が使えるため、平日に2日休み、土日両日活動している部活もある。生徒や教員の負担も考え、休むことを推奨はしているが、生徒の気持ちも考えながら進めていきたい。</p> <p>委員：気持ちと体力のバランスが大切である。そのバランスを生徒任せにせず、教員がバランスをとってあげることも大切である。部活動をやっていても進路実現を遂げる生徒を育てていただきたい。</p> <p>学校：部活ガイドラインについては、国の指針より大阪の指針が甘い。学校ごとの裁量が活かせる形。教員、生徒たちがいかに両立のバランスを保てるかが課題。</p> <p>(ウ) 課題研究について</p> <p>委員：課題研究のアウトソーシングについてはどうか。人材選びの参考になるようなデータベースがあればありがたい。</p> <p>学校：学校と担当教員の人脈が頼みである。同窓会の力もお借りしたい。</p> <p>委員：六稜同窓会から大学別の教授リストは出せるので用意する。</p> <p>学校：指導助言の先生に入ってもらえる機会は増えており、院生に講座をもってもらうことで質も上がってきている。若手の研究者にも来てもらえれば嬉しい。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 高い学力の育成	(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「見える」授業づくり～	(1) ア ・校内での授業公開週間を例年通り2回実施 ・公開研究授業の実施 ・他校の初任者等教員との授業力向上研修の実施 ・校内の教員相互の授業見学を実施。 ・授業、評価等に係る教員研修の開催	(1) ア、イ ・相互授業見学を実施した教員の割合92%以上(29年度実績90.0%)。 ・学校教育自己診断(教職員向け)(以下「教職員自己診断」)「教科指導について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が87%以上(29年度実績85.7%)。 ・教職員自己診断「評価とその方法について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が70%以上(29年度実績65.0%)。 ・学校教育自己診断(生徒向け)(以下「生徒自己診断」)「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が85%以上(29年度実績80.9%)。 ・生徒自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している」の肯定的評価95%以上を維持(29年度実績96.1%)。 ・生徒自己診断「授業は興味深く満足できるものである。」の肯定的評価が85%以上(29年度実績82.8%)。	・93.3% (○) *授業参観週間や公開研究授業の機会を活用して取り組んでいる。 ・83.8% (△) *29年度実績を1.9%下回った。目標に向け引き続き取り組む。 ・69.4% (△) *29年度実績は上回り、成果は表れているが、目標にはやや届かず。 ・90.1% (◎) *29年度実績、目標共に上回り、教職員の授業づくりの努力が結果に表れた。 ・96.8% (○) *目標を達成した。授業の一形態として活用が定着している。 ・87.8% (◎) *29年度実績、目標ともに上回った。
	ア 教職員の授業スキルの向上	(1) イ ・他校や校外における授業研修等への参加者を増やす。 ・研修等への参加者との間で研修内容等の共有化を図る仕組みをつくる。 ・教員の専門的知識を研鑽する機会のあり方について検討する。	(2) ア ・生活アンケートの「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」を48%以上(29年度実績46.5%)、「3時間以上」を27%以上(29年度実績25.2%)。 ・生活アンケートの「休日の一日平均自主学習時間」が「4時間以上」を42%以上(29年度実績40.4%)、「5時間以上」を同31%以上(29年度実績28.6%)。 ・図書館の働きかけを通して、貸出冊数(29年度実績3,850冊)や授業での使用が増えるかどうか、データを取って検証する。	・48.4%、25.7% (○、△) *29年度実績はともに上回るが、目標には届かず。 ・31.4%、23.7% (△、△) *29年度実績を大きく下回る。生徒の様子に変化はなく、質問の仕方を変えたせいかどうか、今後引き続き検証する。 ・5,848冊 (◎) *29年度実績を2,000冊程度上回る。
	イ 研鑽機会の充実	(2) ア ・授業を通じて教科・科目の学習への興味・関心を高める努力をさらに進める。 ・自学自習の推進方策についての検討を深める。(1年：宿題考査の廃止～教科オリエンテーションの充実、全：学習習慣の定着) ・図書館の設備や資料の活用を働きかけ、生徒の自主的、自発的な読書活動や学習活動の充実を支援していく。	(2) イ ・「知的世界の冒険」「職業ガイダンス」「学部・学科ガイダンス」各々の肯定的評価95%以上を維持(29年度実績は87.3%、99.0%、95.5%)。 ・生徒自己診断「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価が90%以上(29年度実績88.9%)。 ・進路希望現役実現率を45%以上(29年度実績44.2%)とする。	・順に86.2%、100.0%、97.3% (△、○、○) *卒業生の協力を得て今後もよりよいガイダンスをめざしていく。 ・92.8% (◎) *29年度実績、目標共に上回り、進路部、学年の情報発信の成果が表れている。 ・34.6% (△) *生徒の進路希望が上がり、現役合格率が下がって実現率も昨年を大きく下回った。設定目標の見直しが必要。

府立北野高等学校

<p>2 豊かな人間性と 心身のたくましさの育成</p>	<p>(1) 学校行事・部活動・課外活動 ア 学校行事や部活動 イ 各種コンクール等への参加</p> <p>(2) 人権教育・教育相談の充実 ア 人権基礎教育推進 イ 教育相談の充実</p>	<p>(1) ア ・学校行事が生徒にとってより魅力的なものになるように不断の改善を図る。 (1) イ ・生徒が課外への活動に積極的にチャレンジしていくよう、情報提供等を含め、働きかけを活発にする。</p> <p>(2) ア ・本校における人権教育の体系化を図る。 ・教職員の人権意識をさらに高めるための研修機会等について検討する。 (2) イ ・生徒の状況についての共有化を一層図る。 ・SCとの連携やケース会議の充実、関係機関との連携を一層図っていく。 ・教育相談にかかる校内体制づくりを推進する。</p>	<p>(1) ア、イ ・生徒自己診断「文化的行事(体育行事)には楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が90%以上(29年度実績89.6%)。 ・生活アンケート(生徒向け)における「部・同好会加入率」92%以上を維持(29年度実績94.9%) ・全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数が平成29年度実績を維持(平成29年度実績45人9団体)。</p> <p>(2) ア、イ ・生徒自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が80%以上(29年度実績79.4%)、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が55%以上(同50.4%)。 ・生徒自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が65%以上(29年度実績58.8%)。 ・教職員自己診断「すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が70%以上(29年度実績62.5%)。</p>	<p>・90.9% (○) *文化93.0%、体育88.7%</p> <p>・94.5% (○) *1,2年生の平均値</p> <p>・48人11団体 (○) *部活(陸上、剣道、水泳、山岳他)、アカデミア(物理五輪、数コン、英語ディベート他)とも前年実績以上。</p> <p>・順に83.4%、59.6% (○、○) *目標値を達成。引き続き、教育相談の充実、保健室との連携、生徒の内面に触れる生徒指導の充実に取り組む。</p> <p>・72.3% (○) *人権講演会(12月)をはじめ、LHR等をも活用して学ぶ機会の充実を図る。 ・66.1% (△) *数字が十分でない。委員会を中心に取組の充実を図る。</p>
<p>3 次代のグローバル・リーダーの育成</p>	<p>(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成 ア 議論できる力等の育成</p> <p>(2) 海外の機関や大学との連携 ア 高大連携 イ 海外との連携</p>	<p>(1) ア ・「課題研究」「学内留学」「国際情報」「海外研修」等を中心に、英語を含めて、ディベート(即興型)やプレゼンテーション等の学習と実践を行う。また、あらゆる学習活動の中で、自分の考えをまとめ、発表する機会を充実させる。</p> <p>(2) ア ・国際的な社会課題への関心と課題解決に向けた意欲を高めるため、国のSGH事業をも活用して高大連携をさらに進める。 ・大学の留学生との交流機会の拡大や、課題研究における生徒支援をさらに進める。 (2) イ ・海外の大学や高校との連携をさらに進め、生徒の国際経験を深めるとともに、課題について研究し、成果を発表する。</p>	<p>(1) ア ・生徒自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が78%以上(29年度実績76.0%)。</p> <p>(2) ア、イ ・生徒自己診断「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が73%以上(29年度実績69.9%)。</p> <p>・生徒自己診断「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の肯定的評価が63%以上(29年度実績61.0%)。 ・生徒自己診断「国際的な社会課題や政治の動きに関心がある」の肯定的評価が70%以上(29年度実績66.0%)。</p>	<p>・90.7% (◎) *28年度実績、目標共に上回り、成果が表れた。(1年96.5%、2年87.4%、3年88.7%)。</p> <p>・81.2% (◎) *英語、地公の授業での取組のほか、SGHでの関連テーマでの講演会の開催等、取組の成果が表れた。</p> <p>・57.5% (△) *来年度に予定している豪の高校との交流を契機に機会の充実を図る。</p> <p>・77.6% (◎) *「EUがあなたの学校にやってくる」や主権者教育LHR等、取組の成果が表れた。</p>

府立北野高等学校

4 【課題研究】	<p>(1) 校内研修の活性化を通じた教職員の力量形成</p> <p>(2) 「知」の継承・発展 ア 「経験知」の継承</p> <p>イ 「経験知」の活用と喫緊の課題解決 ①北野生「育成スタンダード」(仮称)策定にむけた展望</p> <p>②校務運営委員会、校内(GLHS)PT・WTの活動</p> <p>(3) 部活動休養日の有効活用</p> <p>(4) 学習環境のさらなる充実 ア 指導部、保健体育部の働きかけ</p> <p>イ 予算の効果的執行等</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 (1) ア・イ再掲 ・初任期教員(1～概ね3年目の教員)に対する力量形成支援を管理職、首席がチームで行う。 ・教育Cのリーダー研修、10年経験者研修、アドバンスセミナー等に参加する教員が研修成果の校内還元を行う。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蓄積された「経験知」の次世代継承に向け、今年度は、 ①各分掌、委員会業務の円滑な推進 ②「指導と評価の年間計画」の実行に取り組む。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「育成スタンダード」(仮称)の策定に向け、まずは、 ・教務部、進路部がイニシアティブをとって、高・大・選抜の一体的改革および学習指導要領改訂について教職員に提要し、 ・これからの北野生に身に付けさせたい学力と、そのために必要なカリキュラムについて議論を深める。 <p>②校務運営委員会、校内PT、WTにおいては、以下の業務に特に意を用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びやすく、働きやすい」年間行事計画について考える。 ・学校教育自己診断、生活アンケート等を分析し、その結果から、具体的なアクションプランを提案する。 ・IR (Institutional Research) の考え方を入れ、オール文理となった本校の今後の広報(魅力発信)について具体案を提示する。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動休養日の活用状況を部活ごとに検証し、学習、アウトリーチ活動の両面で可能な部分から実行に移す。 <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導部と保健体育部が中心となって生徒に働きかけを行い、生徒の主体的な実践を通してみな清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。 <p><指導部>望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた生徒への継続的な啓発活動、いじめ防止、情報リテラシーの育成</p> <p><保健体育部>校内美化等の環境整備に向けた生徒保健委員会等への活動支援、防災教育</p> <p>(4) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業第一主義」支える予算の効果的執行 ・教材機器・設備の更新、プール、部室棟、トイレ等生活環境の改善に向けた中期的検討 	<p>(1)</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任期教員に対する力量形成支援のプログラムを年間5回程度計画的に行う。 ・教育C研修参加教員による成果発表を職員会議、学校掲示板等で行う。 ・以上の取組の成果と課題を踏まえて、次年度の取組方針を定める。 <p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任期プログラムへの参加、教育C研修への参加と校内発表が有意義なものであったかどうかを質問紙調査等により把握する(肯定的評価90%を目安とする)。 <p>(2) ア</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年度当初に新旧担当の引継ぎをスムーズに行い、以降は、新担当がPDCAと次年度の引き継ぎを意識しながら業務を進めること。 ②各教科で議論して作成した「指導と評価の年間計画」を引き続き実行し、観点別による学習評価を通じて、さらなる改善、深化を図ること。 <p>(2) イ</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ①-1 教務部・進路部合同会議(各代表2～3名)を前後期各1回行い、「たすき掛け」で互いの守備範囲を共有すること。 ①-2 学習指導要領の改訂をテーマとした教職員研修を1回設定する。 ①-3 新たに導入する英語学力調査の結果について分析し、今後の方向性を考察する。 <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ②-1 年間行事計画の今年度からの変更点について、「学びやすく、働きやすい」変更であったかを検証する。 ②-2 WT会議を計画的に行い、校内(GLHS)PTにその成果(アクションプラン等)を提案する。 <p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・WTの活動が有意義なものであったかどうかを質問紙調査等により把握する(肯定的評価90%を目安とする)。 <p>(3)</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末に部活動休養日の定着度及び活用の状況を部活ごとに取りまとめる。 <p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度の定着100%、学習面での取組開始100%、アウトリーチ活動の取組開始50% <p>(4)</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動や委員会への活動支援が現に生徒に自主自律の精神を涵養し、生徒の望ましい主体的行動を促しているかどうかを検証する方策を具体的に講じること。(具体的な指標:挨拶、時間厳守、規律・ルールの遵守(授業規律、服装、携帯電話の使用等)、モラル・マナーの向上(登下校のマナー、公の場での行動のあり方、校内美化・緑化、清掃の状況等) *世の中の規範、モラル、マナーがそのまま北野高校の「ルール」となる。 *その意味や社会的意義を理解したうえで自律的・主体的に行動する。 *学校の品格は自分たちで築き自分たちで守るもの。 <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校会計事務の適正化を踏まえ、教員と事務職員が、単なる分業ではなく、それぞれの専門性を生かしつつ、必要な情報を収集共有し互いに知恵を寄せて、よりよい教育活動に向けた創造的提案を行うこと。さらには、具体的な改善事例を一つ以上あげること。 	<p><取組の進捗></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開研究授業の実施(6人延べ17回) ・大教大「教師の学び舎」受講(5人延べ11回) ・SGH高校生公開討論会の指導(放課後昼休み計14回、初任者2名が指導リーダーで参画) ・センター研修成果の校内還元(掲示板や職員会議にて) <p><成果の把握>聞き取りにより参加教員から概ね肯定的な評価を得た。(○)</p> <p><取組の進捗></p> <ul style="list-style-type: none"> ①分掌主任が業務の可視化、整理統合を指揮し、日々の業務の円滑な推進に取り組む。 ②教科ごとに実施した観点別学習評価のシミュレーションを今年度定例化した教科会で引き続き分析検証する。 <p><取組の進捗></p> <ul style="list-style-type: none"> ①-1 企画会議(進路部主任、現前教務主任が所属)において、恒常的に行っており、必要に応じて校長、教頭が助言している。 ①-2 教育Cの伝達講習会の報告会を9月の職員会議で、探究活動の学習会を11月の課題研究推進委員会で実施。 ①-3 9月に1年生全員が英語4技能を診る外部テストを受検した。国際基準のスコアを取得した意義は生徒にとっても学校にとっても絶大。 <p><取組の進捗></p> <ul style="list-style-type: none"> ②-1 校務運営委で概ね好ましい変更であったと検証。安全衛生委で生徒の保健室利用履歴と教員の時間外勤務の相関を検証中。 ②-2 将来構想WT、データ分析WTはほぼ年間稼働。ノークラブデイ活用WTも部活ガイドライン議論で素案を提示。 <p><成果の把握>聞き取りにより担当教員から概ね肯定的な評価を得た。(○)</p> <p><取組の進捗></p> <p>部活動活動方針の策定に歩調を合わせて、各部活で今年度活動を検証中。ノークラブデイを活用したアウトリーチ活動は組織的に進めるには至っていない。</p> <p><成果の把握>(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度の定着ほぼ100%、アウトリーチ活動は自治会、特定の部活、有志による。 <p><取組の進捗></p> <p>昨年度、学校教育自己診断に追加した以下の項目のスコアを継続的に検証。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(生徒)何事にも自主的、主体的に取り組むように努めている。(H29→H30=77.8%→83.5%) ・(生徒)校則や社会のルール、モラルをきちんと守っている。(H29→H30=93.8%→95.3%) ・学校の清掃美化にしっかりと取り組んでいる。(H29→H30=79.6%→88.5%) <p><取組の進捗></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年教室プロジェクターの更新(済) ○2年教室プロジェクターの更新(4/9) ○体育館フロア一部改修終了 ○プール、トイレ改修工事延期
-------------	---	--	--	---